



Title	中国語の“V 掉”、“V 下”の意味・機能とその拡張の動機づけ
Author(s)	王, 鈺
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2025, 2024, p. 24-42
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102194
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

中国語の“V 掉”、“V 下”の意味・機能とその拡張の動機づけ

王 鈺

キーワード：力学的関係、空間的關係、文法化

1 はじめに

現代中国語において、“掉 (diao, 落ちる)”、“下 (xia, 降りる/下がる)”は、同様に移動物が垂直方向、特に上から下への位置変化を起こすという下降移動義を表す。また、本動詞から拡張された複合動詞“V 掉”、“V 下”には、(1) と (2) のように、類似した意味・機能が存在している。

- (1) a. 摘掉眼鏡 / 摘下眼鏡 「メガネを外す」
b. 卸掉包袱 / 卸下包袱 「肩の荷を下ろす / 荷物を下ろす」
- (2) a. 吃掉饺子 / 吃下饺子 「餃子を食べる」
b. 输掉比赛 /* 输下比赛 「試合に負ける」
c. * 惹掉麻烦 / 惹下麻烦 「トラブルを招く」

(1) では、“V 掉”、“V 下”は、“摘 (zhai, 外す)”、“卸 (xie, 下ろす)”との結合によって、物を本来の位置から引き離すという分離義を表している。しかし、(1b) のように、目的語が“包袱 (荷物)”である場合、“V 下”は、物理的な分離事象の場面に偏るのに対し、“V 掉”は、肩の荷を下ろすという心理的負担に関わる抽象的な分離事象を表すこともできる。一方、(2) では、意味の文法化により、“V 掉”、“V 下”は、後項動詞の実質的意味が希薄化し、前項動詞の表す動作/行為の完遂または状態が極度に至るというアスペクトの文法的機能を持つ。この完遂・極度義を表す“V 掉”、“V 下”は、(2a) のように、同様な前項動詞と結合できる場合がある一方、(2b)、(2c) のように、前項動詞との結合の容認度が異なる場合も見られる。

本研究は、“V 掉”、“V 下”は意味・機能に関してどのような違いがあるか、また、その違いがどのような動機づけをもとに生じるかを明らかにすることを目的とする。論文の構成は以下の通りである。2 節では、下降移動義を含む動詞の意味特徴と文法化

に関する先行研究を概観し、本研究の立場と仮説を示す。続く 3 節では、意味と形式の側面から、本動詞“掉”、“下”の類似点と相違点を論じる。4 節では、コーパス調査を通して、複合動詞“V 掉”、“V 下”の意味・機能と拡張の認知メカニズム・動機づけを考察し、本動詞における意味的關係性との繋がりを解明する。最後の 5 節は、本研究の結論と今後の課題を提示し、“V 掉”、“V 下”はそれぞれどのように位置付けられるかを提案する。

2 先行研究と本研究の仮説

2.1 下降移動義を含む動詞の意味的特徴に関する先行研究

中国語において、“掉”、“下”、“落”などの動詞は、相対的な下降変化を含むことで共通する一方、それぞれの意味的特徴には違いが存在する。まず、先行研究において、下降移動義を含む各動詞の意味的特徴はどのように捉えられてきたかを概観する。

従来の先行研究では、“落 (luo, 落ちる)”と比較しながら、“掉”の意味的特徴を論じる観点がある。田 (2015) は、“掉”と“落”を移動動詞として捉え、両動詞は、共起語と文脈の点で違いがあると指摘した。「述語 (V) + 対象目的語 (N)」という構文において、“掉”、“落”は、両方ともに、“花”、“灰 (埃)”、“泪/眼泪 (涙)”と共起可能である。両動詞は、移動物が本来の位置から分離され、そして下降移動が生じるという事象連鎖を表している。しかし、目的語が“牙 (歯)”、“头发 (髪)”、“体重”である場合、“掉”のみが使用可能であり、“落”の使用が容認されない。この場合の“掉”は、移動物が本来の位置から分離されるという状態変化を含意し、移動の方向づけは必ずしも垂直方向であるとは限らない。

また、「移動物 (N) + 述語 (V) + 場所目的語 (L)」という構文において、主語の移動主体が“飞机 (飛行機)”である場合、(3) のように、両動詞の使用可能な文脈が異なる。

(3) a. 飞机掉机场上，爆炸了。

「飛行機が空港に墜落して、爆発した。」

b. 飞机落机场上，稳稳地停住了。

「飛行機は空港に着陸し、安定して止まった。」

(田 2015: 125)

(3a) は、飛行機の重さと急劇な下降移動による空港に対する衝撃の結果を表すのに対し、(3b) は飛行機の緩やかな下降移動の過程を表す。文脈の違いから、“掉”は移動物自体の重さに関連する変化結果に焦点を当て、“落”は移動の過程に焦点を当てることで意味的特徴が異なると考えられる。

一方、先行研究において、“下”の意味的特徴を分析する際には、空間関係で対称性を持つ“上(shang, 上がる)”との比較を通して考察を進める立場が多い。任・于(2007)によれば、“上”と“下”の中心義は同様に物理的な移動を表す。また、中心義から周辺の意味への拡張のプロセスにおいて、“上”の表す事象には、着点要素が前景化され、移動主体が着点に到達するという段階が注目されるのに対し、“下”の表す事象には、起点要素が前景化され、移動主体が起点から離れるという段階が活性化される傾向がある。

また、Lakoff & Johnson (1980) による上下の概念メタファー (HAPPY IS UP, SAD IS DOWN) に基づき、多くの研究では、物理的移動事象から心理的移動事象への拡張に関して、“上”における高位置への上昇移動(例：“上台阶”¹)を、積極的な感情を伴う「正の移動」として認識している。それに対し、“下”における低位置への下降移動(例：“下台阶”)を、消極的な感情を伴う「負の移動」として捉えている。

以上からわかるように、類義関係にある“掉”と“落”の比較、反義/対称関係を持つ“下”と“上”の比較を通して、下降移動義を含む“掉”、“下”の表す移動には、いくつかの類似点が存在し、例えば、消極的な心的態度を伝達できる点で共通していることが明らかにされている。しかし、“掉”、“下”を対象とした直接的な比較を行った研究が管見の限り非常に少ない。両動詞は、使用状況と意味特徴ではどのような違いがあるか、明らかにされていない。

2.2 下降移動義を含む動詞の文法化に関する先行研究

前述したように、“掉”、“下”、“落”は、同様に下降移動義を表し、意味的に類似している。しかし、複合動詞“V落”は、アスペクト的な意味・機能を持っておらず、“V

¹ 中国語において、“上台阶”と“下台阶”は、「階段を上る/降りる」という物理的移動を表すだけではなく、心理的領域における比喩的用法として、“上台阶”は人生や仕事、能力などが次の段階に上がることを表現できるのに対し、“下台(阶)”は辞任の意味、または、強い態度を緩和し、面子を立てるための妥協・譲歩を表すことができる。

掉”、“V 下”よりも文法化の程度が低い。先行研究においても、特に、“V 掉”、“V 下”の文法化に注目したものが多く見られる。

“V 掉”の文法化に関する研究では、刘（2007）は、“V 掉”の中心義を「客体離脱（分離義）」として位置付けた上で、「客体消失（消滅義）」、「事態完遂/状態実現（完遂・極度義）」はどちらも「客体離脱（分離義）」から比喩的な拡張関係によって拡張したものであると主張した。また、“V 掉”の意味・機能の文法化現象に伴い、主観性の強化も見られる。文法化の程度が低い分離義、消滅義よりも、文法化の程度が高い完遂・極度義では、前項動詞が消極的な感情を表すという意味的制約が強くなり、話者の物事に関する主観的な心的態度が窺える。また、この消極的な感情は、分離義との関連性があると指摘されている。

(4) a. 这柿子烂掉了。「この柿は腐ってしまった。」

b.* 这柿子生掉了。「この柿は未熟だった。」

(5) a. 树叶都黄掉了。「木の葉が全部黄色くなった。」

b.* 树叶都绿掉了。「木の葉が全部緑になった。」

（刘 2007: 138）

(4) と (5) のように、完遂・極度義を表す“V 掉”は、分離義に含意される「物の破損」という部分的な状態変化の意味要素を継承するため、“生（未熟）”、“绿”などの物の初期状態を表す形容詞と結合できず、“烂（腐る）”、“黄”などの物の状態が悪化するという方向への変化を表す形容詞と結び付けられる傾向がある。

丸尾（2017）は、“V 掉”の完遂・極度義への拡張の要因は、その消滅義に含意される意味要素にあると主張している。“V 完（wan, 終える）”、“V 好（hao, 終える/ておく）”などの汎用性が高い結果補語との比較によって、“V 掉”の表す動作の完遂・極度義を支える主な動機づけについて、「対象の消失」という要因を挙げている。例えば、“吃（食べる）”という動詞と結びつく場合、“V 完”は、動作の完了を強調し、対象物は残っていてもよいことを表す。それに対し、“V 掉”は、行為の完遂を強調し、それが表す事象には、対象物の消失が必要となる。

“V 掉”の完遂・極度義を支える動機づけが、分離義に含意される対象の破損であっても、消滅義に含意される対象の消失であっても、先行研究で指摘されていたのは、

あくまでも“V 掉”の文法化の段階である。すなわち、完遂・極度義は、分離義から拡張されているか、それとも、分離義から消滅義への拡張のプロセスを経由し、完遂・極度義が生じるかという問題が注目されている。しかし、“V 掉”の各意味・機能の文法化は、本質的にどのような統一した認識メカニズムによって動機づけられるか、その問題まで掘り下げられていない。

一方、“V 下”の文法化現象とその完遂・極度義に関して、主に3つの捉え方が存在する。1つ目は移動義から拡張される結果義として捉える立場である。于（2006）は、「どの成分が移動するか、またどのように移動するか」という基準により、“V 下”の意味を7つに分けている。この7つの意味の中で、“V 下”の表す完遂・極度義は、対象移動物が移動後の位置と状態を保持するという結果義として捉えられる。

2つ目は文法マーカという観点を用いた捉え方である。李（2021）は、“V 下”における後項動詞“下”が目的語と直接的に共起可能かどうかという基準によって、その意味・機能を判断している。これによって、“跳下”（跳下桌子/下桌子（テーブルを下がる））と区別し、“摘下”（摘下眼鏡/*下眼鏡（メガネを外す））、“惹下”（惹下麻烦/*下麻烦（トラブルを招く））はどちらも文法マーカとして捉えられる。この捉え方では、完遂・極度義と“V 下”の他の拡張義の性質を区別せず、いずれも文法マーカとして認めた上で、文法化の段階性を考察する。

3つ目は文法化の段階と概念構造の違いを区別するという捉え方である。王（2023）は、“V 下”のプロトタイプ概念構造には、典型的な移動義の概念構造、離脱義の概念構造、到達義の概念構造という3つの下位構造が存在することを指摘している。また、“V 下”の意味・機能を移動義の範疇（文法化の程度が低い）、結果義の範疇、文法的機能の範疇（文法化の程度が高い）に分け、3つの概念構造との関連性を分析した上で、完遂・極度義を“V 下”の概念構造全体の中に位置付ける。

これらの捉え方は、いずれも“V 下”の文法化現象の特徴の一部を示しているが、“V 下”の完遂・極度義を支える動機づけはどのようなものであるかは、論じられていない。また、“V 掉”の完遂・極度義を支える動機づけとは違いがあるかについて、さらなる検討が必要である。

2.3 本研究の立場と仮説

本研究の考察対象“V 掉”、“V 下”は、方向補語または結果補語としての意味・機能

だけではなく、完遂・極度義という文法的機能まで拡張することで類似し、他の下降移動義を含む動詞と比べて意味の広がりが顕著である。一方、“了 (le, た)” という過去態/完了態を表示するテンス・アスペクト助詞と比べると、“V 掉”、“V 下” は完全に助詞の機能まで文法化されておらず、「半文法化的助詞」または「完遂体マーカ (completive marker)」と見なされる。Bybee et al. (1994) は、類型論的に異なる 30 以上の言語において、完遂体マーカが存在し、これらの完遂体マーカは、文法化の程度がやや低く、語彙本来の意味的特徴が保持されると指摘した。本研究は、このような立場を踏まえ、完遂・極度義を表す“V 掉”、“V 下” を完遂体マーカとして捉え²、以下の仮説を立てている。

(6) 完遂体マーカ “V 掉”、“V 下” に関する仮説

- a. “掉”、“下” は同様に下降移動義を表すが、意味的特徴と中核的な意味的關係性が異なる。
- b. “V 掉”、“V 下” には、本動詞 “掉”、“下” の意味的關係性が保持される。完遂体マーカとしての意味・機能も、それぞれの関係性から影響を受ける。
- c. “V 掉”、“V 下” に含意される意味的關係性が異なるため、別の動詞クラスとして位置付けられるべきである。

この仮説を検証するために、次節から、北京語言大学コーパスセンター (BLCU Corpus Center) による現代中国語コーパス (以下、BCC コーパス) の用例を用いて考察を進める。

3 本動詞 “掉”、“下” の意味的・形式的特徴

3.1 「述語 (V) + 移動物 (N)」における “掉”、“下”

本節では、本動詞 “掉”、“下” の意味的・形式的特徴を考察し、その類似点と相違点を分析する。

まず、場所格が文中で出現しない場合、“掉”、“下” は同様に「述語 (V) + 移動物 (N)」という構文形式をとることができる。移動物が “雨”、“雪”、“冰雹 (雹)” など

² 本研究は、李 (2021) の立場と異なり、完遂・極度義とそれ以外の拡張義を区別し、完遂・極度義を表す “V 掉”、“V 下” のみを完遂体マーカとして認める。

の自然物であり、気候現象を描く際に、両動詞には大きな違いが見られない。

- (7) a. 时浓时淡的烟岚飘然于上，不一会掉雨点了。 (《人民日报》1987)
「濃くなったり淡くなったりする霧が、(ふわりと) 立ち上り、まもなく雨が降り始めた。」
- b. 全国各地普遍下雨，大部地区旱象已除。 (《人民日报》1950)
「全国的に雨が降り、ほとんどの地域で干ばつは解消した。」

(7) のような気候現象表現では、特定の使役主が存在せず、移動物の自発的な下降移動を表す。本動詞“掉”は、自動詞であり、一般的に、移動物が動詞の前に出現するという「N+掉(下/下来)」の構文形式で使用される。「掉+N」のように、他動詞の構文形式で自発的な移動を表す語例に関して、主に3つの意味タイプが抽出される。

表1 「掉+N(移動物/分離物)」の意味タイプ(BCCコーパスに基づく)

意味タイプ	Nの語例/頻度数
【A】下降移動	眼泪(涙)/2893、馅饼(パイ) ³ /587、价(価値)/16
【B】体/物全体の部分的変化	链子(チェーン)/462、肉/421、牙(歯)/309、漆(ペンキ)/112
【C】物の紛失(所有権の喪失)	钱(金)/236、钱包(財布)/42

これらの3つの意味タイプにおいて、意味タイプAの「下降移動」のみが、動的移動関係と明確な方向性を含意する。一方、他の2つのタイプでは、移動物の位置変化の方向性が判断できないとともに、話者が物の位置変化よりも、物の状態変化に焦点を当てている。(8)と(9)はそれぞれ意味タイプBの「体/物全体の部分的変化」と意味タイプCの「物の紛失」に当たる用例である。

- (8) 如能有效控制牙周病，就能减少牙齿脱落的机会，甚至终生不掉牙。
(《文汇报》2003)
「歯周病を効果的にコントロールすることができれば、歯の喪失リスクを大幅に軽減でき、生涯にわたって歯が抜けない可能性も高まる。」

³ “掉馅饼”は、一般的に、比喻関係によって拡張される慣用句として使用される。パイが空から落ちてくるような、予期しない幸運を指す。日本語では、類似している表現として、「棚からぼたもち」という慣用句が存在する。

- (9) 小郑找到车上掉钱包的那个社员问明原委，将装有六百元的钱包交还失主。

(《福建日报》1984)

「小鄭は車内に財布を落とした社員を見つけて事情を確認し、六百元が入った財布を持ち主に返還した。」

(8) は、歯が本来付着している歯茎から抜ける事象を表すが、その後、歯がどこに移動するかという動的移動関係は焦点化されていない。(9) は、財布が車内の地面に落ちたという物理的な位置変化を表すわけではなく、物の所有権が喪失されるという状態変化を表す。この事象において、動作主は非意図的に財布をどこかの位置に移動してしまうことで財布を失くす可能性もある一方、財布は位置変化を起こしていないものの、単に動作主がその存在の場所を忘れてしまったと解釈することも可能である。このため、これらの非意図的・自発的な移動/変化事象において、動的な移動関係は必須ではない。また、特定の使役主が存在しないため、物の移動/変化を引き起こす何らかの要因があると考えられる。その要因は、ある力実体として捉えられる。例えば、“掉”の表すタイプ A の「下降移動」は、自然力（重力）による位置変化である。タイプ B の「体/物全体の部分的変化」は、物の生理的变化や老化などという内在力または、非意図的な外力による部分的状態変化を表す。タイプ C の「物の紛失」は、注意力という認知的力による所有権の喪失を表す。このため、「掉+N（移動物/分離物）」という構文を支える中核的な意味の関係性は、空間的關係ではなく、力的関係であると考えられる。

一方、“下”は、自動詞と他動詞の用法の両方を持つ。また、気候現象表現以外に、基本的に意図性のある移動を表す。コーパスデータに基づき、「下+N」の表す意味・機能には、次の3つの意味タイプが存在する。

表2 「下+N（移動物）」の意味タイプ（BCC コーパスに基づく）

意味タイプ	N の語例/頻度数
【A】 下降移動（移動全体）	腰/3590、毒/1545、雨/1435、雪/912、饺子（餃子）/153
【B】 開始動作（起点焦点化）	手/4614、措施（措置）/1403、命令/997、杀手（切り札）/824、筷子（箸）/576
【B】 到達動作（着点焦点化）	结论（結論）/816

これらの3つの意味タイプは、いずれも空間関係を含む移動事象として捉えられる。意味タイプAの「下降移動」では、“下毒（毒を盛る/入れる）”、“下饺子（餃子を（鍋に）入れる）”のような動作主による移動物の使役的下降移動を表す語例と、“下腰（腰を反らす）”のような動作主の身体姿勢の位置変化という自立的下降移動を表す語例が見られる。一方、移動の全段階を含む意味タイプAと区別し、意味タイプBの「開始動作」と意味タイプCの「到達動作」はそれぞれ移動の起点と着点の一方のみが焦点化されるが、意味タイプAと同様に下降移動という動的な移動関係が捉えられる。

(10) 这不能怨刑部大堂的刽子手无能，只怨袁大人乱下命令。 （莫言《檀香刑》）
「このことは刑部の処刑人の無能さを責めるべきではなく、すべて袁大人の無茶な命令に原因がある。」

(11) 围观的人们都聚精会神地看着他，好像病人家属期待着医生给自己的亲人下结论。
（莫言《牛》）
「周囲の人々の視線は彼に集中しており、まるで医者が身内に診断を下すのを、患者の家族が固唾を吞んで待っているかのようなようだった。」

(10) では、動作主が命令を下す対象は、自分より身分/地位が低い人である。命令が抽象的な移動物として、身分が高い人から低い人に移動する。(11) の“下结论”は、単に検討の末に結論に達したという到達動作を表すだけではない。その動作を行う動作主は一般的に専門的知識や主導権を持つ人である。動作主が自分の経験や知識に依拠し結論を下すのは、その結論を専門知識を持たない人に伝達する意味を含む。これによって、「下+N」という構文形式に着目すると、垂直方向である上下概念を含む空間的關係は、“下”の各意味・機能における中核的な意味的關係性であると言える。

3.2 「移動物（N）＋述語（V）＋場所格（L）」における“掉”、“下”

場所格が文中で出現する場合、“掉”、“下”は、「移動物（N）＋述語（V）＋場所格（L）」という構文を取ることができる。この場所格は、静的場所・位置関係を示す背景・参照点として、起点と着点のどちらかを指す。

場所格が起点である場合、“掉”に関して、“掉队（隊列から遅れる/仲間から外れる）”、“掉线（回線が切れる）”などが挙げられる。これらの語例は、「掉+N」の構文形式と

同様に、何らかの力による非意図的・自発的移動/変化を表すが、下降移動という方向性を表さない。また、話者が期待・予期しない変化表現であるため、消極的な心的態度を伝達する傾向がある。“下”が述語である場合、この構文は、移動主体が行為/状態を起点として、その起点から離れるように、行為/状態を終結するという意味を表す。“下班（退勤する）”、“下线（回線を切る）”⁴のような意図性のある移動表現が多いが、“下岗（失業する）”のような意図性のない表現も存在する。また、場所格が着点である場合、“掉”の用法は限られ、物理的な下降移動の場面のみで使用可能である。それに対し、“下”は、“下海（起業する）”、“下基层（現場に赴く）”などの抽象的な位置変化の場面にも用いられる。

以上のように、場所目的語を取る構文形式に関して、“掉”、“下”の表す事象には、移動の起因や動作の意図性の有無、位置変化の抽象化などの点で違いが見られる。対象目的語を取る構文形式と同様に、両動詞における意味的關係性が異なると想定できる。

3.3 本節のまとめ

本節では、“掉”、“下”の意味的特徴とそれらが表す事象の特徴の考察を通して、両動詞は、共起可能な目的語と文脈が異なるだけではなく、各動詞における中核的な意味的關係性も異なり、それぞれ「力的関係」と「上下の空間的關係」に当たることを明らかにした。以下の表3のように、意味と形式の側面から、“掉”、“下”の特徴をまとめる。

表3 “掉”、“下”の意味的・形式的特徴

	意味	形式
掉	力実体（自然力/内在力/認識の力など）による非意図的・自発的移動/変化（消極的感情を含意する表現が多い）	「N+V（下/下来）」、 「V+N」、 「N+（在）+V+L」
下	上下の空間的認識に基づく物理的/抽象的移動（意図的移動表現が顕著であり、非意図的移動表現も存在する）	「V+N」、 「N+V+L」


⁴ “掉线”、“下线”のように、“掉”と“下”は同様に、ネットや通信状況から離れるという抽象的な移動を表す。しかし、“掉线”は、何らかの原因で回線が自然に切れることを表すのに対し、“下线”は、動作主が意図的に回線を切って通信を終結することを表す。

4 複合動詞 “V 掉”、“V 下” の意味・機能と動機づけ

4.1 “V 掉” の意味パターンと力学的関係

続いて、複合動詞 “V 掉”、“V 下” の意味・機能および本動詞との関連性を論じる。本研究は、王 (2024) の分類方法と同様に、“V 掉” の表す事象類型に着目することで、その意味・機能を 4 つの意味パターンに分類する。

表 4 “V 掉” の意味パターンと文法化の段階

意味パターン	V1 の動詞類型	力学的関係に基づく変化事象		文法化
		状態変化	位置変化	
パターン 1 分離事象型	使役変化動詞 (剪(切る)、割(刈る)、剥(剥く)) 使役移動動詞 (脱(脱ぐ)、抜(抜く)、卸(外す))	○	○	
パターン 2 単純移動型	自律移動動詞 (走(歩く/離れる)、跑(走る)、溜(滑る/こっそり逃げる)、逃(逃げる)、飞(飛ぶ)) 使役移動動詞 (放(逃す)、扔(投げる)、丢(捨てる))	×	○	
パターン 3 消滅事象型	消耗・消失動詞 (烧(焼く)、拆(解体させる)、吃(食べる)、删(削除する)、除(駆除する))	○	×	
パターン 4 完遂・極度型	授受義動詞 (送(送る)、卖(売る)、还(返す)、赔(損する)) 心理動詞 (忘(忘れる)、戒(やめる)、忽略(無視する)) 変化動詞・形容詞 (输(負ける)、死(死ぬ)、疯(狂う)、烂(腐る)、臭(臭くなる)、冷(冷める))	○	×	

この 4 つの意味パターンのうち、中核的なパターン 1「分離事象型」には、状態変化と位置変化の両方が含まれる。他の意味パターンでは、状態変化と位置変化の一方のみが前景化される。その中で、パターン 2「単純移動型」では、位置変化が前景化されるのに対し、意味パターン 3「消滅事象型」とパターン 4「完遂・極度型」では、状態変化が前景化される。

また、“V 掉” は、“掉” における意味的關係性を継承し、これらの 4 つの意味パターンはいずれも力による移動/変化事象として認められる。しかし、“掉” の表す事象では、単一的な力実体（移動/変化を起こす要因）による力的関係が見られるのに対し、“V 掉” の表す事象では、2 つの対抗した力実体による相互作用が捉えられる。本研究は、単一的な力実体による「力的関係」と区別し、“V 掉” における力的関係を、「力学

的關係」と称する。

「力学的關係」とは、動力学的認知に基づく作用と反作用といった力の相互作用を示すものである。この意味的關係性を捉える言語モデルとして、Talmy (2000) によって提唱された力動性モデル (Force Dynamics Model) が存在する。このモデルでは、力のバランスによる相互作用をいくつかのパターンに図式化している。必須の關係参与者として、本来的に何らかの初期傾向を持つ力実体は主動体 (agonist) と呼ばれるのに対し、主動体に反する力を持つ力実体は対抗体 (antagonist) と呼ばれる。以下、この2つの力実体による相互作用は、各意味パターンにおいてどのように捉えられるかを説明する。

“V 掉”の意味パターン1「分離事象型」では、分離元、分離物、動作主の3つの参与者が存在する。主動体となるものは分離物であり、対抗体となるものは動作主である。分離元と分離物の空間的關係は、主動体の初期的傾向性 (静止/活動) を示す。

(12) 机器把甜菜翻起来，立即就把叶子切掉放在一边，把菜根放到了另一边。

(《人民日报》1952)

「機械は甜菜をひっくり返し、すぐに葉を切り落として片側に置き、根をもう一方に置いた。」

(13) 门板和门框上满是钉子眼，可门栓却拔掉了。(高行健《一个人的圣经》)

「扉の板と枠には釘の穴がいっぱいだったが、扉のかんぬきは抜かれていた。」

(12) では、分離物 (葉) と分離元 (甜菜) は「全体-部分」の空間的關係に当たり、物理的一体性を持つ。主動体は本来的に静止傾向にあるが、動作主 (機械) が対抗体として、主動体に分離動作の力を行使した。主動体が対抗体からの力を受けたことによって、一体性が失われ、内在的傾向性が静止傾向から活動傾向へ変わる。一方、(13) のように、分離物 (扉の板、扉の枠) と分離元 (扉のかんぬき) は、本来的に「表面-付着物」の關係に当たり、物理的一体性が捉えられない。主動体は自由に移動できるという活動傾向として示される。動作主 (文中には出現しない) は対抗体として、主動体に力を行使し、分離物を分離元に付着・固定させることで、分離物と分離元は、主観的/機能的に一体化しているように見える。この時点で主動体は活動傾向から静止傾向へ変わる。その後、主動体は、対抗体からの分離動作によって働きかけられた結果、一体

性が失われ、静止傾向から初期の活動傾向へ戻る。(12) と (13) の表す 2 つのタイプの分離事象では、異なる力学的関係の形式が捉えられるが、両方ともに、力の相互作用によって、分離物の位置変化と分離元の状態変化が生じるという複合的な事象を表す。

意味パターン 2「単純移動型」では、主動体となるものは移動主体/移動物であり、対抗体は、主動体の移動に障害を与えるものである。

(14) 有一天，它捉住了三只小猪。(…) 小黑猪很聪明，它乘狼不备，没命地逃掉。
(《人民日报》1959)

「ある日、オオカミは三匹の子豚を捕まえた。(…) 黒い子豚はとても賢く、オオカミが油断している隙に、必死に逃げ去った。」

(14) では、移動主体（豚）は、主動体として、本来的に自由に移動できる活動傾向にある。対抗体（オオカミ）は、“捉（捕まえる）” という動作を働きかけ、主動体の移動のプロセスに何らかの妨害を与える。その結果、主動体が対抗体からの力を受け、自由に移動できなくなり、活動傾向から静止傾向へ変わる。その後、豚はオオカミが油断している隙に、必死に逃げ去ったということから、対抗体の力が緩和され、主動体の力が強くなるという力のバランスの変化が見られる。力の相互作用により、主動体は静止傾向から活動傾向へ戻る。すなわち、豚は移動の妨害を取り除き、逃げて離れるという位置変化の結果に至る。

また、意味パターン 3「消滅事象型」では、主動体は消滅物であり、対抗体は動作主である。

(15) 仅在非洲，每年有 500 万英亩森林被当作燃料烧掉。（路遥《人生》）
「アフリカだけでも、毎年 500 万エーカーの森林が燃料として焼かれている。」

(15) では、“V 掉” の前項動詞は消失・消耗義を表す動詞である。消滅物（森）は主動体として、本来的に一体のものであり、安定した形状/量を持ち、その初期傾向は静止傾向として示される。動作主（文中に出現しない）は対抗体として主動体に力を行行使する。その結果、森が形状や数量的変化へ向かうという活動傾向に変わり、消滅の結

果に至る。

最後に、意味パターン4「完遂・極度型」では、心理領域における力学的関係が際立つ。主動体は目的語項となるものではなく、話者または動作主が行為の達成に対して消極的な心理的初期傾向を持つ事柄である。対抗体は、主語項となるものではなく、行為の達成を推進する現実的要因である。

(16) 经过反复的思考后、他决定把澳大利亚公司的先进设备卖掉 10 台。

(《人民日报》2003)

「熟慮の末、彼はオーストラリア企業の先進的な設備のうち、10 台を売ってしまうことを決定した。」


(16) のように、前項動詞“卖（売る）”は、授受関係を含意する動作動詞である。この場合の“V 掉”は、完遂体マーカーへ文法化し、具体的な結果変化ではなく、V1 の表す動作/行為の完遂を表す。動作主は、本来的に「先進的な設備を売る」という事態の達成に対する心理的抵抗性を持ち、消極的な態度が示される。このため、主動体の初期傾向は、静止傾向であると捉えられる。会社の倒産などの現実的要因は対抗体として、主動体に対抗する力を加え、主動体は「先進的な設備を売る」の事態を達成しなければならない状態になる。また、対抗体の力は主動体の力よりも強いため、動作主は、「先進的な設備を売る」という事態を消極的に推進する。最後に、主動体は、静止傾向から活動傾向へ変化し、状態変化が生じる。すなわち、「先進的な設備を売る」という事態が徹底的に達成される。

以上の分析のように、複合動詞“V 掉”が本動詞“掉”の「力的関係」を継承し、さらにその意味的關係は、力の相互作用を含む「力学的関係」へ拡張している。この関係性は、完遂体マーカーを支える動機づけだけではなく、“V 掉”の文法化の各段階においてすべて捉えられる。

4.2 “V 下”の意味パターンと空間的關係

次に、“V 下”の意味・機能とその文法化を考察する。“V 下”の表す事象の特徴に着目することで、表5の通り、“V 下”の意味・機能を4つの意味パターンに分類する。

表 5 “V 下” の意味パターンと文法化の段階

意味パターン	V1 の動詞類型	空間的關係に基づく移動事象		文法化
		起点	着点	
パターン 1 下降移動型	自律移動動詞 (走(歩く)、坐(座る)、垂(垂れる)) 使役移動動詞 (推(押す)、放(置く)、传(渡す))	○	○	
パターン 2 分離・開始事象型	分離動詞 (脱(脱ぐ)、卸(外す)、剪(切る))	○	×	
パターン 3 到達事象型	停留動詞 (停(止まる)、留(止まる)、住(住む)) 容量動詞 (塞(詰める)、存(蓄える)、吃(食べる))	×	○	
パターン 4 完遂・極度型	授受義動詞 (买(買う)、赚(稼ぐ)、惹(招く)) 心理動詞 (忍(我慢する)、记(覚える)、承受(耐える)) 変化動詞 (活(生きる)、赢(勝つ)、生(生む))	×	○	

この 4 つの意味パターンは、いずれも本動詞における空間的關係を継承し、移動事象に該当すると考えられる。それぞれの表す移動事象において、焦点化される段階と要素には違いが見られる。中核的意味パターン 1「下降移動型」では、移動全体が捉えられるのに対し、他の拡張的な意味パターンでは、一部の段階と要素だけが焦点化される。

空間的關係に基づく下降移動事象には、必須の關係参与者として、焦点（移動主体/移動物）と背景（移動の起点/着点）の 2 つが存在する。また、この 2 つの参与者は、＜静的な場所・位置の關係＞と＜動的な移動關係＞によって關係づけられる。＜静的な場所・位置の關係＞は、移動主体/移動物が、起点/着点に対してどのように位置するかという相対的な位置（移動後、移動物が起点に対して「下」に位置する）を表す。＜動的な移動關係＞は、移動主体/移動物が、起点から何らかの経路を経由し、着点に到達するという位置の変化（上から下へ移動）を表す。

“V 下” の意味パターン 1「下降移動型」では、移動主体/移動物は、初期の位置である起点から離れ、最後に下の位置である着点に到達するという移動全体が捉えられる。

- (17) 我们必须走下三个台阶,才能来到一间大厅。 (埃克多・马洛《苦儿流浪记》)
「私たちは階段を三段降り、ようやく広間に着いた。」
- (18) 甚至连祖先传下的事业,都因为受到统制而不得不放弃。

(吴浊流《亚细亚的孤儿》)

「先祖から受け継いだ事業さえも、統制を受けて放棄せざるを得なかった。」

(17) は、動作主体の、階段の上から下への物理的な下降移動を表す。(18) は、事業が移動物として、先祖から後継へ伝達されるという抽象的な下降移動を表す。この 2 つの“V 下”の用例は、本動詞“下”における垂直方向づけを保持し、移動の起点、経路、着点といった各移動要素を全て含む。

一方、“V 下”の意味パターン 2「分離・開始事象型」に関して、話者が注目しているのは、移動主体/移動物が起点から離脱するという開始/初期段階である。

(19) 但我又觉得在他身上有许多矛盾，似乎始终没有脱下“五四”时期知识分子的长衫。
(《人民日报》1962)

「しかし、彼の中には多くの矛盾があるようにも感じられ、まるで「五・四」時代の知識人の長袍をいまだに脱ぎ捨てていないかのようにだった。」

(19) は、長袍を身体から分離するように、知識人が固定された価値観を脱ぎ捨てることを表すという比喩的用法である。また、“V 下”の表す分離事象は、“V 掉”の表す複合的な分離事象とは異なり、分離物の位置変化の開始段階に焦点を当てる単純な移動事象として捉えられる。この意味パターンでは、垂直方向という意味的特徴が希薄になり、全ての用法は必ずしも下降移動に当てはまるとは限らない。

意味パターン 3「到達事象型」は、意味パターン 2「分離・開始事象型」と同様に、移動の全段階が注目されておらず、一部だけが焦点化される。このパターンに関して、話者が注目しているのは、移動主体/移動物が着点要素に向けて移動し到達する段階である。

(20) 公共汽车拐过弯，驶到前面缓缓停下。
(吉本芭娜娜《厨房》)

「バスは角を曲がって前方へ進み、ゆっくりと停まった。」

(21) 加上主耶稣的帮助，我可以捱到春天，还可以存下一点钱粮。(莱蒙特《农民们》)

「主イエスのお助けがあれば、私は春まで耐え忍ぶことができ、少しばかりの金と食料を蓄えることもできるでしょう。」

(20) のように、停留義を表す前項動詞との結合によって、“V 下”は、バスが着点に到達するという位置変化を表すだけではなく、その場所に止まるという意味を含む。また、(21) のように、量の概念に関連する容量動詞との結合によって、一定の量である金と食料が動作主に帰属し所有されるという意味を表す。この意味パターンでは、「物の位置の定着」、または「物の獲得」という新たな意味的特徴が生じる一方、下降移動という意味的特徴が完全に喪失する。

最後に、意味パターン 4「完遂・極度型」では、意味パターン 3 と同様に、移動事象における着点要素が焦点化される。“V 下”は、移動物が行為/状態の終結点に到達するように、行為が完遂されるまたは状態が極限に達することを表す。次の用例が挙げられる。

- (22) 她用退休金买下一幢房子出租,兼供部分房客的一日三餐。 (杨绛/《我们仨》)
「彼女は年金を使って一軒の家を購入し、それを貸し出すとともに、一部の下宿人には一日三食の食事も提供している。」
- (23) 如此代代年年赢下了好名声。 (《人民日报海外版》2017)
「このように、世代を超えて年々良い評判を勝ち取ってきた。」

(22) の前項動詞“买(買う)”と (23) の前項動詞“赢(勝つ)”は、移動物が着点である動作主の領域へ向けて移動するという「求心型」の方向づけを持つ抽象的な移動事象を表す。意味パターン 4 の“V 下”は、意味パターン 3 の“V 下”における「物の獲得」という意味的特徴を継承するため、移動物である部屋や評判が動作主の領域へ向けて移動し、最後に動作主に帰属・所有されるという形で、購入動作の完遂、好評を得る状態の定着を表す。すなわち、“V 下”の完遂体マーカーとしての意味・機能においても、空間的關係に基づく認知メカニズムが捉えられる。

以上により、“V 下”は、本動詞“下”における空間的關係を継承しているが、一部の意味的特徴が希薄になる、または喪失する。“下”の表す移動事象では、物理的な下降移動と抽象的な下降移動が見られるのに対し、“V 下”の表す移動事象では、垂直方向の移動が見られる一方、水平方向の移動も存在している。

4.3 本節のまとめ

本節は、“V 掉”、“V 下”の各意味・機能およびその意味拡張を支える認知メカニズム・動機づけを考察し、「力学的関係」と「空間的關係」という意味的關係性の違いを明らかにした。表 6 に 2 種類の關係性の詳細を示す。

表 6 力学的關係と空間的關係の詳細

	必須の關係参与者	關係の種類	中国語の動詞例
力学的關係	主動体、対抗体	＜物理的な力＞ ＜社会力学的な力＞ ＜認識的な力＞	V 掉
空間的關係	焦点、背景	＜靜的な場所・位置の關係＞ ＜動的な移動關係＞	V 上、V 下

5 まとめ

本研究は、完遂体マーカ―“V 掉”、“V 下”に関する仮説を検証し、また、その仮説を具体化した。このことから 3 点の示唆が得られる。

1 つ目は、本動詞“掉”、“下”における中核的な意味的關係性が異なることである。

“掉”の表す事象は、使役主が存在しない、特定の力による非意図的・自発的移動/変化であるため、「力的關係」がその中核的な意味的關係性となる。“下”の表す事象は、動作主の意図性がある自律移動/使役移動を表し、「空間的關係」がその中核的な意味的關係性となる。このため、両動詞は同様に下降移動義を持つが、移動事象の起因と特徴が異なると言える。

2 つ目は、“V 掉”、“V 下”は、本動詞における意味的關係性を継承し、それぞれの意味・機能の拡張を支える認知メカニズム・動機づけが異なることである。また、本動詞から複合動詞への文法化において、その意味的關係性が完全に保持されるわけではなく、一部の意味的特徴が喪失する一方、新たな意味的特徴も捉えられる。“掉”は単一の力実体による「力的關係」を含むのに対し、“V 掉”は 2 つの対抗する力実体の相互作用による「力学的關係」を含意する。“下”は、上下概念を含む垂直方向の空間的關係に当たる。それに対し、“V 掉”の空間的關係では、方向づけに関して特に制限が見られない。

3 つ目として、上の 2 点の示唆を踏まえると、“V 掉”と“V 下”をそれぞれ別の動詞クラスとして位置付けるべきである。“V 掉”と“V 下”は、本動詞や複合動詞の意味・機能で類似点が存在する一方、本質的に異なる種類の意味的關係性に基づく動詞

である。“V 下”は、空間的關係に基づく移動動詞であり、“V 掉”は、力学的關係に基づく力学動詞⁵であると考えられる。今後、これらの意味的關係性を用いて、“V 掉”と“V 下”の結合制限の違いに関する説明を試みる。

参考文献

- Bybee, Joan, Revere Perkins, and William Pagliuca (1994) *The evolution of grammar: Tense, aspect, and modality in the languages of the world*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, George and Mark Johnson (1980) *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- 李卫芳 (2021)「再谈 V 上和 V 下」『华文教学与研究』1: 32-40.
- 刘焱 (2007)「“V 掉”的语义类型与“掉”的虚化」『中国语文』2: 133-143.
- 丸尾誠 (2017)「中国語の結果補語“掉”の用法について—完遂義を中心に—」『言語文化論集』38(2): 47-60, 名古屋大学.
- 任鷹・于康 (2007)「从“V 上”和“V 下”的对立与非对立看语义扩展中的原型效应」『汉语学习』4: 13-20.
- Talmy, Leonard (2000) *Toward a cognitive semantics, volume1: Concept structuring systems*. Cambridge, MA.: MIT Press.
- 田碩 (2015)「移动性同义动词“落”“掉”的含义区别」『黑龙江教育学院学报』34(10), 124-125.
- 王嘉天 (2023)「“V 下”的概念结构及隐喻扩展路径」『汉语学习』2: 50-59.
- 王鈺 (2024)「中国語の分離動詞“V 掉”の意味特徴と多義化プロセス」『認知機能言語学研究』9: 1-16, 大阪大学.
- 于康 (2006)「“V 下”の语义扩展机制与结果义」日中対照言語学会(編)『中国語の補語』209-231, 東京: 白帝社.

コーパス

北京語言大学コーパスセンター (BLCU Corpus Center) 現代中国語コーパス (BCC):
<https://bcc.blcu.edu.cn>

⁵ 人間の知覚的認知に関わる従来の研究では、力学的關係を主要な対象としたものがあまり多くない。力学的概念は、実際に数多くの言語において広範に存在し、動詞の意味拡張や事象の言語化などという様々な言語現象に影響を与えている。今後、力学動詞という新たな動詞クラスを確立するために、動詞の意味的特徴と構文形式を精緻化する必要がある。